

陳 情 文 書 表

受理番号	陳情4第22号	受理年月日	令和4年6月8日
件 名	「区立中学校統合新校推進協議会」において様々な疑問や意見が出て いる今、「推進協議会」での統合校の選定を急がず、若い世代を交えた 論議の場の設置と、子どもを含む地域住民への説明会の開催を求める 陳情		

【陳情の趣旨】

コロナ禍で、学校も子どもも平常の生活を失った2年余の検証と、その回復への手立てを示さないまま、統合計画を進めようとする目黒区に対し、この陳情書を提出します。

- 1 広くなりすぎる学区、とりわけ、八中・十一中の学区の長過ぎて危険を伴う通学路、かかりすぎる通学時間について、協議会で示された「通学負担の緩和措置」の実効性が分かりにくく、どんな子でも安心して通学できる条件が整備されるのか明らかでない。また、異常気象が深刻化し、首都直下型地震に向けて対策が講じられている中、将来にわたって安全な通学環境の確保の見通しが示されていない。
- 2 学区が広くなると、遠隔となる地域の住民の学校への関わりが難しくなり、地域と学校の関係が希薄になることが考慮されていない。また、身近にあるからこそ安心の拠り所となっていた学校の防災拠点としての役割が果たせなくなることに対し、協議会でも不安の声が出ている。特に、高齢の住民や障害を持つ住民にとって、避難所の遠隔化や変更は大きな不安材料と言える。
- 3 建築基準によれば、「統合後」の校舎は高さ制限等のため広大な敷地を必要とし、生徒数が増えるにもかかわらずグラウンドが狭くなったり使い勝手が悪くなったり、学校教育に支障を及ぼすことが予想されるが、そのことが地域住民に明確に示されていない。また、学校規模（学級数や教室数）や設計のビジョンが示されず、子どもの学習環境が「統合以前」より良くなる見通しが不明なまま協議が進められることに、疑問を持つ委員もいる。
- 4 当事者である子ども、将来学校に通わせる子どもを持つ若い世代、これから社会を担う若者の生の声を聞き取らないまま計画を策定し、進めていることは、「ずっと めぐろ」の基本構想の理念から外れている。現に協議会にその世代がない。
- 5 協議会では、上記1から3について疑問や意見が出されているにもかかわらず、区は、論点の整理を行わず、回答が不明解なままであるにもかかわらず、統合を

すでに決定されたものとしてスケジュール通りに進行しようとしている。論点が不明確なままの性急な進行に、協議委員の中から「何を話し合う場なのかわからなくなっている」という声も上がっている。

以上の理由から、次の陳情をいたします。

【陳情事項】

- 1 現「協議会」による統合校の選定を急がず、若い世代も交えた新たな議論の場を設置すること
 - 2 子どもも参加できる説明会を開催して、上記1から4に対する具体的対策案を提示すること
- を求めます。